



コラム

「縁」に流されて

坂総合病院 QI 委員 リハビリ室主任 工藤 雄一郎

データベース。あ、それなら聞いたことある！でしょうか？
自分たちが行ってきたことが数字としてコツコツ残されていく大事な作業で、はるか太古の時代から存在してきました。

データベースとの縁は、入職2年目にリハ部内の電子カルテ移行業務を頂いてからです。その頃からリハ科の富山先生に「データベースは財産だ！」と、データベースのまとめ方について教えてもらえたおかげで、今でも（ほぼ勝手に？）リハ部データベースの仕事に関れ、自分にとっては大きな「縁」でしょう。

それから様々の縁で今日にいたっています。

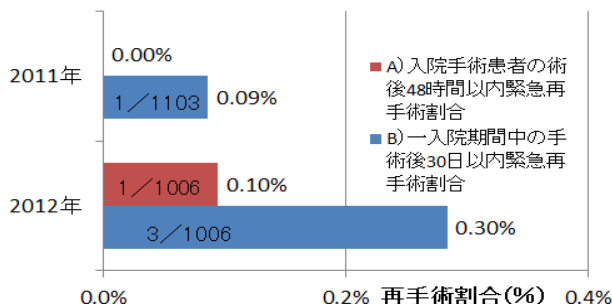
脳外の渡部先生に声をかけていただき、大量データの抽出・整理の方法を学べ、JUMMSの登場で、関係業務に携われ、どうやってJUMMSを使う！と思っているときに、循環器懇話会があり、その事務局の「縁」で翌年の糖尿病シンポジウムとつながり、これらの縁で糖代謝科の沖本先生から声をかけていただき、また今年もデータベースに関れる毎日を過ごせています。（いいかげんどこかで断れよ！と思っている方は正解です（笑））

こうして振り返ってみると、こんな自分でも、「縁」に流されるまま関わってきたおかげで、いろいろな人や知識と出会えました。

データベースには大変感謝しております。

指標紹介

入院手術患者の術後緊急再手術割合



救急車で運ばれ一刻を争う状況で行う緊急手術の場合には詳しい検査をするいとまがないことも多いのですが、予定して行う手術の場合、入念に準備をした上で手術が行われます。それは手術は簡単にやり直しがきかないという大前提があるからです。ここに算出する一度行った手術の後の再手術は、予定外の重大な事態が起きたことを意味します。当然ゼロとなることが望ましい値です。

念のために言い添えておくと、同じ手術でも患者さんによってその難しさが異なります。大学病院やがんセンターなどでは、より手術の難しい患者さんや治療に難渋する合併症を持っている患者さんが集まりやすいものです。そのため高い技術を持っていても成功率はそれほど高くないように見えるということも起こりえます。

したがって他の病院との比較には注意が必要です。再手術割合が不自然に高い場合には技術上の問題を抱えているのかもしれませんが、そうでない場合には、技術や管理上の問題がないか考察する資料として経年的な数値の推移をみていくことになります。

手術後30日以内の緊急再手術に48時間以内の患者さんも含まれてしまうので、30日以内の再手術について今回は検討します。いずれにせよ、2011年は1000件を超える手術を行って1件のみ発生しています。2012年は3件です。割合で見ると全日本民医連のデータのほぼ中央値に近い値です。しかし、傾向を論じるにはあまりにも生じている件数が少なすぎます。逆に一例一例詳しく反省を加えることができるということでもあります。当面は、このような事態がなぜ起きたのか、医療技術や管理の根本に弱点を持っていないか、ひとつひとつ振り返ることが最も有効な手だてと思われる。 QI 委員会委員長 富山 陽介

シリーズ“統計のはなし” No.12

QI ニュースにコラムを書かせていただくようになって丸一年になりました。続けてこられたのは「コラム読んでよ」の声に支えられてきたおかげだと思っています。（リクエストを貰えるとなお励みになるのでご連絡ください。）

さて、今回は良く耳にする統計のキーワード「相関」をテーマにお送りします。

【相関って?】

「相関」は「二つのものが密接に関わっていること」という意味です。「株価が高いと経済も好調」といった2つの物事の変化が似通っている様子を見る指標になります。

ただし、「〇〇は■■の原因で…」という意味はありません。相関関係は「原因と結果」を表しません。

例えば…インフルエンザの流行と外来の混み具合には相関があるようです。そこで、「インフルエンザの患者数が増えると流行の規模が大きくなる」と因果関係を解釈すると何かがおかしいですね。「流行するほどインフルエンザの患者数が増える」の方が説得力が高いです。

このように、相関の有無で自動的に原因と結果決まるのではなく、「2つの物事でどちらが先か」解釈してはじめて因果関係が見えてきます。

【実は関係ない? - 擬似相関 - 】

例：アイスクリームの売上と水難事故件数は相関が高いので、アイスクリームがよく売れたら水難事故注意！

…本当でしょうか？

どちらも「夏になったから」というのが本当のところ。共通する物事があるために相関があるように勘違いすることがあります。この「第三の要素」そう簡単に見いだせない事が多いです。また、「風が吹けば桶屋が儲かる」のことわざのように、様々な要因があって相関があるように見誤ることがあります。裏付けを確かめることが大事ですね。

「相関」についてはまだまだ話が尽きないのですが、続きは次回に回すとします。

擬似相関のジョークサイトの紹介記事があったので、ぜひご覧ください（真に受けて信じないようにお気をつけを）。

<http://gigazine.net/news/20140512-suspicious-correlations/>

医療情報企画センター SE 佐藤洋之

次号（第13号・6月発行予定）のご案内

次回は引き続き指標紹介「救急車受け入れ割合」、シリーズ“統計のはなし” No.13 を予定しています。

